

はじめに・・・

横浜市は、大地震や台風、土砂災害などの様々な危険にさらされています。

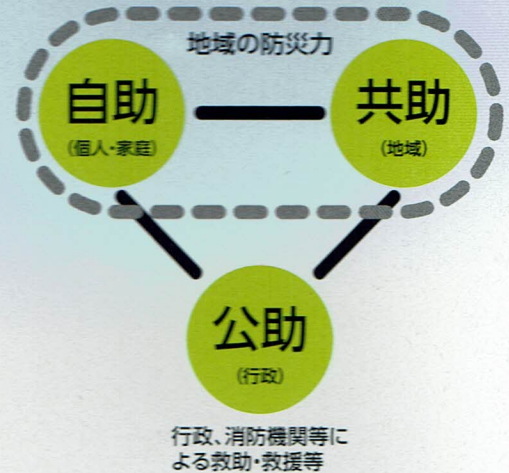
本冊子では、こうした様々な災害に対する市民の皆様による自助、共助の取組の参考にさせていただくために作成したものです。

災害による被害を少しでも軽減するためには、公助に加えて、自助と共助の力が大変重要です。

事前の備えや、ご家庭・地域での話し合いなどに、ぜひご活用ください。

平成 29 年 3 月

「自らの身は自ら守る」 「皆のまちは皆で守る」



横浜市

目次

地震編

よこはま地震防災市民憲章	P3
横浜市の地震被害想定	P4
地震マップ全市	P6
津波避難対象区域図	P7
地震に備えよう	
家族と話し合い	P8
地震に強い家	P8
家の中の安全	P8
火災に強い家	P9
備蓄品や非常持出品の準備	P10
事業者の備え、一斉帰宅抑制	P11
地震が起きたら	
その場の身の安全	P12
すばやい火の始末	P14
帰宅困難者	P15
津波からの避難	P16
避難する場所	P17
地震の後の避難生活	
在宅被災生活	P18
地域防災拠点での避難生活	P18
水や食料	P18

風水害等編

風水害に備えよう	
集中豪雨とは	P19
日頃の備え	P19
防災情報等の流れ	P20
台風、土砂災害、都市型水害、地域での取り組み	P22

雷に備えよう

安全な空間へ避難	P23
安全な空間に避難できない場合	P23

竜巻に備えよう

竜巻の予兆	P23
避難行動	P24

大雪に備えよう

大雪が予想される場合	P24
除雪を行うには	P24

情報収集編

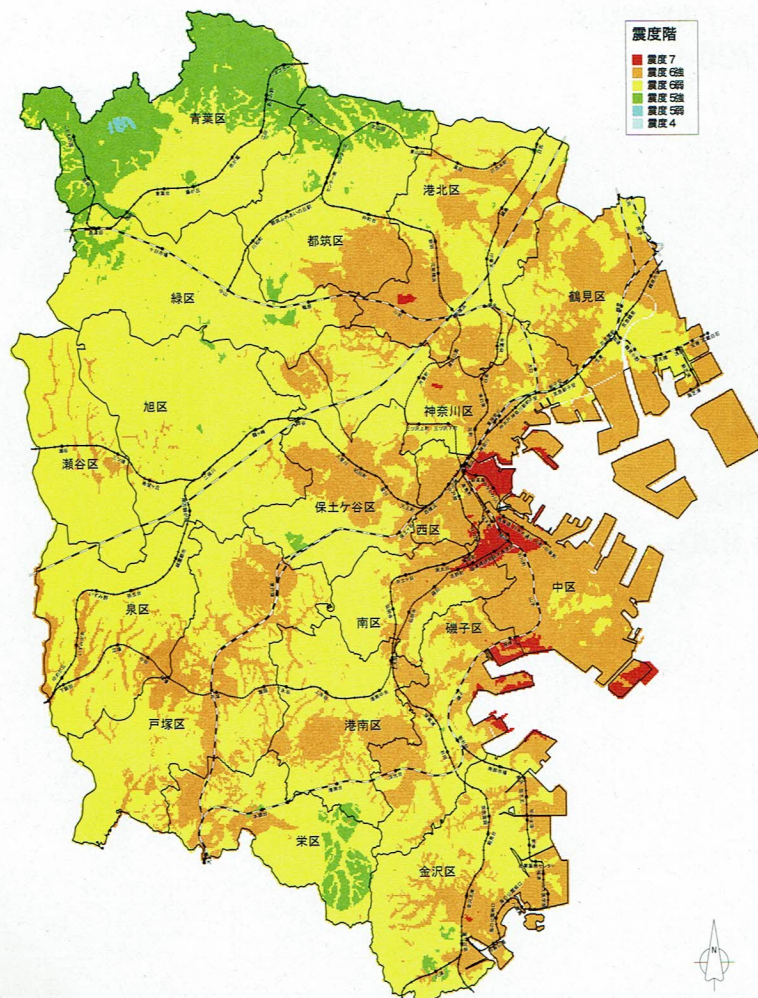
災害時の情報収集方法	P25
------------	-----

共助編 ～普段から地域でできること～

身近なところから地域全体を守る

隣近所の助け合い	P26
家族の安否確認	P26
市民防災センター	P26
町の防災組織	P27
町の防災組織の目指すべき姿	P27
災害時に動けるように	P28
まち歩きをしよう	P29
各種研修、共同住宅ならではの備え	P30
高齢の方、障害のある方の支援	P31
男女共同の視点など	P31
応急手当、救命処置	P32
初動消火器具	P34
町の防災組織の活動チェック	P35

元禄型関東地震被害想定 地震マップ:市全域



【横浜市地形図複製承認番号 平24建都計第9091号】

横浜市消防局 平成24年10月作成横浜市地震被害想定調査に基づいて、市内における50mメッシュごとの震度階評価を行いました。

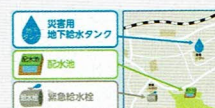
この地震マップは、横浜市の地震被害で想定した4つの地震のうちの一つ、元禄型関東地震がもたらす震度を表したもので、市内の最大震度は7と想定されます。

しかし、地震はいつ、どこでどのような規模で発生するのか予想は困難です。

このマップで震度が市内で比較的低い并表示されている地域の皆様も、やはり最大震度7を想定して、自助、共助の取り組みを進めていく必要があります。

スイスイまっぷ

本市には、災害時に飲料水を得ることのできる災害時給水所が合計515か所あります。パソコンからでも「スイスイまっぷ」の詳細な地図で、家庭や職場の近くにある災害時給水所を調べることができます。



▲「スイスイまっぷ」のイメージ

地震マップについて詳しくは…

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/jisin-map/>

わいわい防災マップ

横浜市のホームページにある「わいわい防災マップ」を活用すると、簡単に地図を作ることができます。「わいわい防災マップ」では、白地図だけでなく、災害が発生した際の危険性や避難場所なども表示することも可能です。プリントアウトした地図をもとに地域で話し合い、自分たちの地図を作ってみましょう。

わいわい防災マップには、災害全般について、震度や浸水区域を選択して表示させることができます。

表示できる主な内容

震度、浸水区域、焼失棟数、各避難場所、災害時給水所、土砂災害警戒区域、避難に適する道路・適しない道路、緊急輸送路など



わいわい防災マップを印刷し、地域防災拠点や消火栓など地域の防災・減災情報を書き込んで活用しましょう。

わいわい防災マップ

検索

災害を語り継ぐ ～耐震化で救える命～

平成16年に発生した新潟県中越地震で被災された星野剛さんは、家の耐震化の大切さを強く訴えます。

「当時、震源地に程近い、小千谷市の山間地、塩谷で被災しました。10月23日17時56分、直下型で震度7の激震に襲われ、その激しい第一波で一瞬にしてライフラインもすべてスタスタになりました。自宅は潰れ、一家4人瓦礫の下敷きになり、地域住民の懸命の救助活動で約3時間後に出してもらいましたが、当時11歳(小学校5年生)の息子はすでに死亡、妻は入院5ヶ月の重症を負いました。約50戸の塩谷集落では他に小学生2人が死亡、多くの負傷者と最初4棟、続く大雪で20棟倒壊しました。どうか、このような最悪の被災者に成らない為に、住宅の耐震化をお願い致します。家が無事であれば、助かる命があります。」

熊本地震

平成28年4月14日21時26分頃、熊本県熊本地方を震源とする、最大震度7を観測する地震が発生しました(前震)。その後は余震が続くものと思われていた同16日1時25分頃に、再び最大震度7を観測する地震が発生しました(本震)。この地震で家屋が倒壊したことなどにより、多くの方が負傷し、あるいは亡くなってしまいました。また住宅は、熊本県内で全壊・半壊・一部破損あわせておよそ18万棟(平成29年1月末現在)と、多くの住宅が被害を受けました。

火災に強い家ですか？

地震時の火災被害

横浜市の被害想定では、地震時の火災により77,000棟以上が焼失することが予想されています。

お住まいの地域は安全ですか

地震時の火災被害は市内でも一部の地域に集中することがわかっています。横浜市では重点的に火災対策が必要な地域として「重点対策地域(不燃化推進地域)」・「対策地域」を定めています(右図参照)。

家の不燃化を進めましょう

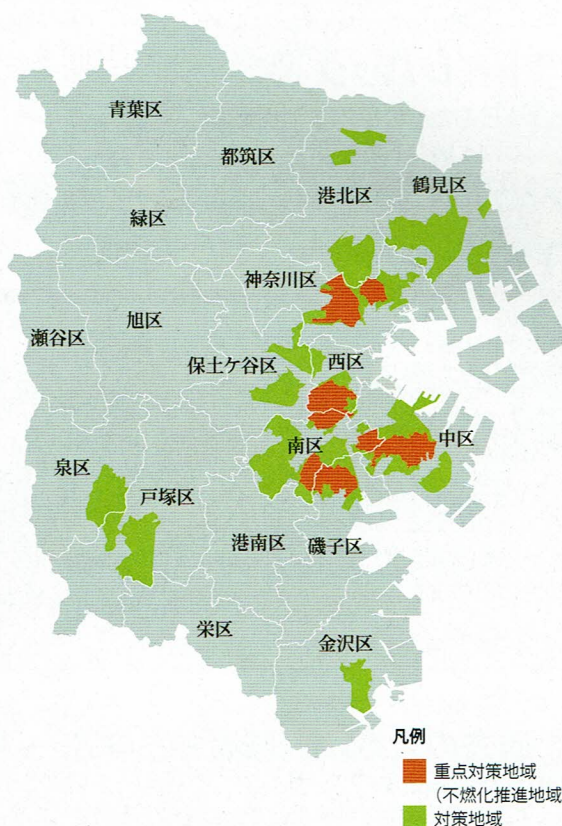
火災被害を防ぐには燃えにくい建物にすることが重要です。横浜市では「重点対策地域(不燃化推進地域)」等において、建物を取り壊す、建て替えるまたは改修する際に、最大で300万円まで補助金を交付しています。対象となる地域は下記URLを参照してください。

建物の安全性が不安な方はご相談を

木造建築物の安全性が気になる方に向けて、専門家派遣による無料相談を実施しています。対象となる地域は、下記URLを参照してください。

※補助安全相談には一定の条件があります。詳しくはHP等をご覧ください。

重点対策地域(不燃化推進地域)及び対策地域の区域図

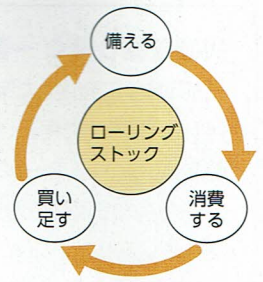


- 【不燃化推進事業】横浜市都市整備局防災まちづくり推進課 TEL:(045)671-3595
- 【木造建築物安全相談事業】横浜市建築士事務所協会 TEL:(045)662-2711
- 【防災まちづくり推進課HP】

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/bousaimachi/>

● 備蓄品や非常持出品を準備していますか？

- 災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。家族構成を考えて、必要な備蓄をしておきましょう。
また、すぐ取り出せるところに非常持出品を準備しておきましょう。
- 備蓄する量の目安は**最低3日分**です。
- 家族構成や生活スタイルにあわせて、食料や日用品を少し多く買い備えて、備えたものを順番に使いながら新たに買い足していく循環型備蓄(**ローリングストック**)という考え方もあります。



～備蓄品～

飲料水

1人3日分で9ℓが目安です。
(例)3人家族の場合
3人×9ℓ=27ℓ



食料品

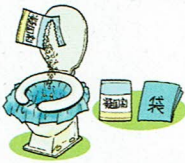
クラッカーなど調理せずに食べられるもの、缶詰(缶切りが不要なもの)など

※食物アレルギーのある方は、自分に適したものを備蓄するようにしましょう。

トイレパック

1日あたりの平均排泄回数は5回といわれています。1人3日分で15個程度が目安です。

家庭のトイレなどに設置して使用する「凝固剤」と、「処理袋」のセットです。ホームセンターなどで購入できます。



～非常持出品～

懐中電灯・ランタン

予備電池も用意しましょう。



携帯ラジオ

AM、FM両方聞けるものを用意し、予備電池は多めに用意しましょう。

貴重品

現金、預貯金通帳、印鑑、健康保険証

その他

紙皿、紙コップ、救急医薬品(ばんそうこうなど)、常用薬、お薬手帳、携帯電話用充電器、ウェットティッシュ、生理用品、ビニール袋、タオル、歯磨用品、軍手、食品用ラップ、ホイッスル

■ こんな家庭にはこんな非常持出品も!!

乳幼児のいる家庭で用意するもの

ミルク、ほ乳びん、離乳食、スプーン、おむつ、おしりふき、着替え、ベビー毛布、おんぶひも、乳幼児のおもちゃ



要介護者のいる家庭で用意するもの

着替え、おむつ、障害者手帳、補助具等の予備



妊婦のいる家庭で用意するもの

さらし、脱脂綿、ガーゼ、母子手帳、新生児用品

■ 過去の大地震経験者から学ぶ ～被災時にあってよかったもの～

過去の大地震では、断水が起きたため、生活用水(洗濯、入浴、洗面)やトイレ、飲食用の水で困った人が多くいました。そこで、水の備蓄はもちろん、水を運ぶポリタンクや台車、身体をふくウェットティッシュが特に役立ったと言われています。

また、停電やガスの不通によって、食事や家族間の連絡で困った人も多くおり、懐中電灯や携帯ラジオ、携帯電話用充電器、乾電池、卓上コンロも重宝されました。

さらに、女性については、生理用品などの備蓄も役立ったと言われています。

自分そして家族の性別や年齢を考慮し、必要な備蓄を行いましょう。

